



**その子のありのままの
気持ちをまず聴く**

娘と息子がいます。男女共同参画を学び始めてから、自分の子どもたちへの態度が、娘と息子で違っていたことに気付きました。息子には、「男らしく」「男だろー」ということを言ったりして、男としてこうあるべきだという自分の価値観に基づいて言っていました。しかし、その子らしく、その子のありのままの気持ちや心の動きをそのまま受け止め、よく聴くことを優先させるようにしました。少し父親として進化しているかなと思っています。まだまだ父親としての道は続きますが、我が子たちが、お互いを尊重できる関係を築ける大人になって欲しいので、自分も学び続けたいと思います。

(30代男性)

性別を超え 世代を超え 一人一人が幸せを実感できるまちへ

今年の
男女共同参画フォーラム in 薩摩川内は、
男女共同参画の視点に立った
地域づくりがテーマです。

性別・世代・障害の有無などにかかわらず、誰もが出番と居場所のある地域を目指し、女性50人委員会の活動発表やパネルディスカッションを行います。また、いろいろな人と対話してさまざまな考えにふれる場としてダイアログカフェも開きます。参加は無料、託児もあります。あなたの参加をお待ちしています。

- とき 10月19日(日) 13:00～16:30
- 場所 薩摩川内市国際交流センター
- 参加申込・問合せ
薩摩川内市役所 企画政策部
コミュニティ課男女共同参画グループ
☎(23)5111(内線4621)



男女共同参画講座についてのお知らせ
あなたの地域や職場でも
開催してみませんか



6月13日に入来中学校で行われた出前講座では、高崎恵さんを講師に迎え「自分らしく生きるために、私のこと、友達のことを考えてみよう」をテーマに、全校生徒104人がワークショップ形式で学びを深めました。

市では、男女共同参画社会について正しく理解していただくために出前講座を実施しています。各団体、事業所で講座を開催してみませんか。講師派遣に係る費用は市が負担します。

関心をお持ちの方、まずは、コミュニティ課男女共同参画グループへお電話ください。
☎(23)5111(内線4621)

あなたも一緒に作りませんか？編集員募集中！とらあんぐるは市民がつくる男女共同参画情報紙です。

この情報に関するご意見、ご感想、取り上げて欲しいことなどありましたら、下記までご連絡ください。

【編集】=「とらあんぐる」編集員
【問合せ】= ☎ 895-8650 薩摩川内市神田町3番22号 薩摩川内市役所 企画政策部 コミュニティ課
☎(23)5111(内線4621) ☎(20)5570 ✉ sho-gender@city.satsumasendai.lg.jp

「聴いてもらえない寂しさ」から
異性を求める

親に話を聴いてもらえない日々が続いていました。自分の話を聴いてもらえない寂しさを埋めようとして、異性を求めるようになっていきました。自分のことを無条件で可愛いと言いい、話を聴いてくれる男性は、とても居心地のいい存在。しかし、「好きな人から愛されたい、そのためには彼に気に入られたい」といえない」という思いから、嫌なことをされても、NOが言えない関係に陥ってしまいました。お金を要求されても、見捨てられたくないから断れない。苦しいけれど、どうすればいいのかわ



較され、「あなたは大丈夫」「元氣だから」と期待され、「弱い自分を見せてはいけない」「ありのままの自分では愛してくれないんだ」と必死に偽りの自分を演じていました。そのことから、だんだん自信を失い、自分の尊さを感じられなくなりました。

また、強権的で暴力的な父親から影響を受けて、男性全般に対して恐怖を抱くようになり、異性と恋愛をすることに全く興味を持たなくなりました。

(10代女性)

からない彼との関係。相談したくても、心配をかけたくないからと、親の前では一生懸命いい子を演じ続けました。その結果、次第に自分が自分じゃなくなっていくのを感じるようになってしまいました。

(10代女性)

子育てで気付いた
聴くことの大切さ

定年まで今の仕事を続けたいと思いつながら、三人の子どもを育ててきました。夫は、家事や育児に協力的でしたが、それでも家庭での負担は私の方が重いと感じていました。男尊女卑の考えがまだまだ残っている地域だったので、子どもを預けて働く女性への風当たりは強く、さまざまなしがらみも多かったです。

しっかりと家庭と仕事を両立せねば、良き妻・母・嫁であらねばと、PTAや地域の活動にも積極的に参加してきました。

「自分らしさ」を無くしていることに気付いたのは、進学校に通っていた長男が不登校になったときです。どこに相談しても処方箋は見つからず、「回復までは年単位で考えて」とか「親御さんがカウンセリングを受けたい方がいいですよ」との助言を受けました。

子どもを一刻も早く立ち直らせた私には、納得のいかないものばかりでした。

私が、子どもに対して「理想像」を求め、深く子どもを傷つけていたことに気付くまでには、長い時間が必要でした。



我が子のことは、誰よりも知っているつもりでしたが、「彼らしさ」を尊重していなかったのです。そして、「彼らしさ」を尊重できなかったのは、私自身が「自分らしさ」を大切にしていなかったから。「ねばならない」に捉われて、「私がどうしたいのか」はどこかに置き忘れていたのです。

永い間に刷り込まれた性別による役割分担意識は、すぐには消し去ることはできませんが、「ありのままの自分」を肯定することで、「自分らしさ」を取り戻せたように思います。

子育ての終わったこれからは、地域の大人の一人として、地域の子どもの話を聴いてあげられるおばちゃんになりたいと思っています。

(50代女性)